

目次	会務等報告	259
	第18回青空地衣教室（神奈川県松田町；2006年5月）の報告／安斉唯夫・木下靖浩	259
	第18回青空地衣教室（神奈川県松田町；2006年5月）で観察された地衣類／安斉唯夫・木下靖浩・原田浩	260
	随想：第18回青空地衣教室（神奈川県松田町）に参加して／亀田昌三	260

会務報告 Report of the JSL Activities

第18回青空地衣教室（神奈川県松田町；2006年5月）の報告

Report of the 18 th JSL Outdoor School on Lichens at Yadoriki, Matsuda-machi, Kanagawa-ken, May 2006 / by Anzai T. & Kinoshita Y.

神奈川県松田町寄（やどりき）において第18回青空地衣教室が開催されましたので、報告いたします。

* * *

開催日：2006年5月21日（日）
開催場所：神奈川県足柄上郡松田町寄（やどりき）地区栗林
講師：原田浩氏（千葉県立中央博物館）
参加者：11名（講師を含む）

* * *

一昨年、昨年と二年続けて神奈川県大山で開催しましたが、今年は同じ神奈川県でも大山より少し西に位置する松田町寄で青空地衣教室を開催しました。

寄地区は酒匂川の支流である中津川に沿った盆地で丹沢山系の南東部に位置しています。集合地のバス停前の街

路樹にすら多数の地衣が着生していて、いつものように歩みの遅い観察会になりました。

主に観察したのは栗林ですが、ここは人工林といって



図1. 栗林で地衣類観察。

も杉林と違って樹と樹の間隔が広いため地衣にもよく陽が当たり、幹や枝がびっしりと地衣で覆われていて、楽しい観察時間を過ごすことができました。

この栗林は私有地でしたが、持ち主の方が地衣観察に

快く同意して下さり、青空地衣教室を開催することができました。ここに深く感謝申し上げます。

(安斉唯夫・木下靖浩)

第18回青空地衣教室(神奈川県松田町寄; 2006年5月21日)で観察された地衣類

Lichens observed at the 18th JSL Outdoor School on Lichens at Yadoriki, Matsuda-machi, Kanagawa-ken, 21 May 2006 / by Anzai T., Kinoshita T. & Harada H.

樹状

Cladonia humilis ヒメジョウゴゴケ

葉状

Candelaria concolor ロウソクゴケ
Canoparmelia aptata シラチャウメノキゴケ
Cetrelia braunsiana トゲトコブシゴケ
Collema subflaccidum トゲカワホリゴケ
Dirinaria applanata コフキチリナリア
Flavoparmelia caperata キウメノキゴケ
Heterodermia japonica クロアシゲジゲジゴケ
Hypotrachyna nodakensis ノダケウメノキゴケ
Hypotrachyna pseudosinuosa タカハシウメノキゴケ
Hypotrachyna revolute ハコネゴンゲンゴケ
Leptogium moluccanum var. *myriophyllum* コバノアオキノリ
Menegazzia terebrata センシゴケ
Myelochroa aurulenta コナウチキウメノキゴケ
Myelochroa leucotyliza ヒカゲウチキウメノキゴケ
Myelochroa metarevoluta コフキチヨロギウメノキゴケ

Parmelinopsis minarum トゲウメノキゴケ
Parmelinopsis spumosa コナヒメウメノキゴケ
Parmotrema austrosinense ナミガタウメノキゴケ
Parmotrema mellissii ニセマツゲゴケ
Parmotrema subpallescens ウスイロマツゲゴケ
Parmotrema tinctorum ウメノキゴケ
Phaeophyscia limbata クロウラムカデゴケ
Phaeophyscia rubropulchra コナアカハラムカデゴケ
Physcia orientalis フィスキア オリエンタリス
Physciella melanchnia ムカデコゴケ
Punctelia borrieri ハクテングケ
Punctelia rudecta トゲハクテングケ
Rimelia clavulifera マツゲゴケ
Rimelia reticulate オオマツゲゴケ

痂状ほか

Agonimiella pacifica マユゴケ
Caloplaca flavovirescens ツブダイダイゴケ
Lecania erysibe var. *luridella* モエギシブゴケ
Lecanora japonica? レカノラ ヤボニカ
Lecanora pulverulenta コナイボゴケ
Lichinella japonica レンダイゴケ

以上 36種

(安斉唯夫・木下靖浩・原田 浩)

随想：第18回 青空地衣教室(神奈川県松田町)に参加して

Occasional thoughts after the attendance at the 18th JSL Outdoor School on Lichens, at Matsuda-machi, Kanagawa-ken / by Kameta S.

亀田昌三：東京都

去る平成18年5月21日(日)11:15 集合(寄バス停前自然休養林管理センター前庭)して、徒歩→シタンゴ山山麓の栗林一帯での観察会でした。

こういう場所では、都会と違って、もう道すがらの並木から葉状地衣のレギュラーの多くと出会える。栗林一帯に入るとの樹木にはもう地衣類の宝庫である。キノコ採りや山菜選びのように探し回る事が要らないのは良

い。陽射しと好みの環境に恵まれれば、どっしりと腰を据えて生息して居ようとしている、色素に富む明るい植物が地衣類だな~と思う。

私は、かつて上野科学博物館開催の地衣類成分・分析講座を受講してから地衣類という植物に興味を抱きました。アセトンで再結晶させて現れて来る様々な結晶の形の面白さに魅せられた事から始まったようです。そし

て、コケとは違って、地衣類は、菌類と藻類が共生関係を結んでできた複合体、つまり共生生物である事が判って来ると、もう、私の趣味の顕微鏡観察と結びついて、益々深くはまってしまったのが正直なところです。

アマチュアとして、地衣類研究の楽しみ方にはいろいろあると思う。普通は、まずコケと似ていると思った小さな生物から形態的にコケとの違いを知ると、さらに葉状地衣類同士でも夫々身にまとう付属物や葉状の大小・形などの違いに多様性があることを知り、ルーベの力では足りなくて実体顕微鏡のお世話になるはず。それからは比較分類がしてみたくなり、自然のままに生育が見られるフィールドに出掛けたり、地衣類観察会に参加して種々採集、指導され、同定を愉しむことになる。

幸い、地衣類の観察には季節や特定の場所を選ばずに都会を離れれば至る所で出来るのが良いと思う。(例えば変形菌観察だと梅雨と秋雨どきの後の森林とほぼ限定され、しかも、探し回らねば見付からない。)前に参加した観察会の時の場所は海辺であった。安定している岩場に痲状地衣が夫々に住み分けて生息し灰色帯・橙色帯・黒色帯をなしているのには眼が丸くなった。ましてや、潮間帯にも、イソギンチャク類やノリに挟まれて生きる地衣の生き様には感動した。お蔭様で最近各地の秘湯・温泉探訪を兼ねて、山奥の地で地衣観察を愉しむようになった。リタイア後のシニア一族の趣味には“もって来い”ではないかな？

しかし、こればかりではない。微小な地衣体組織の中味を探求するミクロの世界の面白さがある。これには、光学顕微鏡の威力が必要になるので、一般的ではないかもしれないが、天地造成主の巧みに神秘感を覚えることが出来る。

岩肌に張り付いている、痲状地衣のアノ薄っぺらな組織体の中でも共生体同士が助け合って、それぞれの役割を果たしながら生育している姿が垣間見られるからである。比喩して表現するならば・・我等の人類社会の生

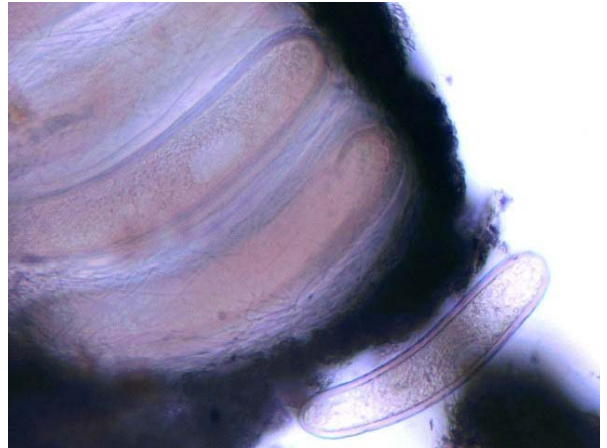


図1. トリハダゴケ属子器断面の顕微鏡写真。巨大な子嚢胞子が子嚢に1個ずつ入っている。

活と同等である・・と言いたい。地衣類の様々な全体種を見たとて、世界人類に各色人種あり、各国人種あり、そして、それぞれの国に住み分けて暮らしている様子と同等に、喩えてみましょう。(《飛躍し過ぎている事は十分承知ですが》)

数ある種ごとに、ひとつの地衣個体を選び無数にある子器の一つを薄い切片にした内部構造を覗いてみると驚きなのです。あたかも、果托の石垣、果殻の壁で出来上がった1軒のビル内にて、菌糸達が緑藻等と夫婦的生活中、子嚢という名のこども部屋みたいなのには、トリハダ家の白色肌・大身な独りっ子が居たり(図1)、ホウネン家は多産で大勢っ子が居たり、ニクイボ家の1室には必ず胞子8個を住まわせていたり(図2)、スミイボ家では1室に黒褐色肌の双子胞子が居たり(図3)、と実に個性的な生活を営んでいると喩えてみたくなる。

友人達に地衣類を研究しているといっても、直ぐ判って貰えない。コケみたいな植物だと言うと少しは理解した顔つきになる。そこで、上に述べたような我等と似たような夫婦的な共生生活を営んでいる不思議な植物なんだ〜と説明して私は相手を煙にまいて独り悦に入っている次第です。そんな事から、余得があった。先日山登りの好きな友人から標高2800m級・山岳で削り採ったという綺麗な黄色の(チズゴケの付いた)小さな岩塊

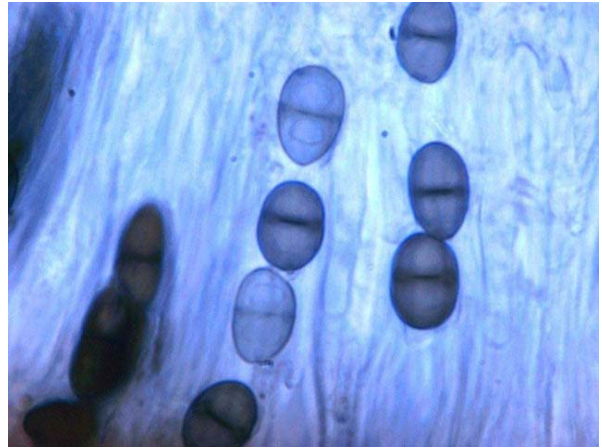
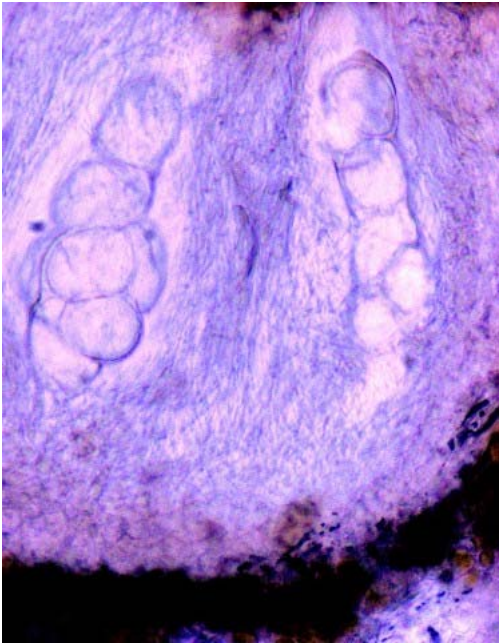


図2 (左). イワニクイボゴケ子器断面の顕微鏡写真.

図3 (上). ホシスミイボゴケ子器断面一部の顕微鏡写真.
褐色の子嚢胞子を示す.

が郵送されてきた。今ではそんな高いところへは登れないし、採集が出来て嬉しくなる。

他の楽しみ方もまだ有ると思う。地衣による植物染色もあるらしい。更に、地衣の培養方法や、分析に関する知識を習得したら、一層興味深いものになるであろうと推測出来る。多くの方は、観察現場で地衣の生態をデジカメ写真で美しく撮ってコレクションしているようだ。これは写真趣味との共生ですなあ～。写真つき図鑑

風にして公開して欲しいし、初心者の私には助かります。
(ホームページにも少し有るようですが)

このように、地衣類研究に嵌ってみたら、その内容たるや、幅広くて、奥深く、私の生活コースに付加価値を作ってくれるし、観察会があるならば、ぜひ参加となりました。

●複製される方へ

本誌に掲載された著作物を複製したい方は、許諾を受けてください。詳細は本誌62号222ページに。

●Notice about photocopying

In order to photocopy any work from this publication, you or your organization must obtain permission. For details, see No. 62, p. 222 of this publication.

●Newsletter from the Japanese Society for Lichenology, no. 73, pp. 259-262: eds. Harada H., Okamoto T., Kinoshita Y. & Tanahashi T., published by the Japanese Society for Lichenology, 10 Dec. 2006.

日本地衣学会ニュースレター 73号

発行日：2006年 12月 10日

編集：原田浩・岡本達哉・木下靖浩・棚橋孝雄

発行者・発行所：日本地衣学会

〒010-0195 秋田市下新城の中野

秋田県立大学生物資源科学部生物生産科学科内

©2006 日本地衣学会 (© 2006 The Japanese Society for Lichenology)

本誌記事の著作権は日本地衣学会に属します。無断転載・無断複製等は固くお断りいたします。